



こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和7年10月24日(金)

実践！オンサイト製炭

～春の黒松剪定枝を炭にしました～ 編

今年6月に続き*、3度目となる黒松の剪定枝葉を製炭しました。廃棄費用をかけて燃やしてしまっているものを木炭にして有効活用できないか、地球温暖化対策にも貢献できないか、令和4年から始めたのしろ白神ネットワーク(以下、NW)の取り組みです。炭材は6月に開催された能代バイパス黒松友の会・春の合同剪定会で生じた剪定枝葉です**。

2週間前から毎日天気予報を見ていましたが、心配していた雨も強風もなく、絶好の炭焼き日和となりました。今回も「まちづくりと木炭の活用可能性を一緒に考えてみませんか」と参加者を募集していたところ、能代科学技術高校農業科の3年生30人が授業の一環で参加して下さいました。

生徒たちは2班に分かれての参加です。最初の班は9時半から、もう1班は11時過ぎから、研究所の研修室で20分ほどこの取り組みの目的や製炭の仕組みなどについて説明を受けたあと、屋外に移動して製炭器を組み立てました。

種火を作って作業を始めますが、6月の製炭時とは異なり、剪定枝葉があまり乾いておらず、白い煙が立ち込めます。なるべく乾燥しているものを選んで、様子を見ながら製炭器に投入すること1時間あまり。煙にまかれたり、炎で炙られたりしながらも2班で土のう袋9個分の木炭を作ることができました。栗本先生の計算によれば、今回の製炭で72kgの二酸化炭素を固定したことになります。

11月には米代川の伐採支障木の製炭も予定しています。今後は今日の木炭と合わせて国道7号沿いの緑地に埋設し、防草効果の検証をしながら、NWの木炭活用の取り組みを発信していくことにしています。ご参加下さったみな様、大変お疲れ様でした。

文：渡辺 千明

*令和7年6月27日、**令和7年6月1日の活動レポート参照



研究室で20分ほど説明を受けてから屋外へ移動しました。



製炭器1台を使い、完全に燃えてしまわないように気をつけて乾燥した剪定枝を投入していきます(上)。湿気が高いと白い煙がモクモクとあがります(下)。



投入した炭材の燃焼を見届けたら水をかけて消火します(上)。全体を混ぜながらよく冷ましたら終了です(下)。